

# 令和3年度第2回教育課程編成委員会 議事録

【日 時】令和3年11月21日（日）14:00～15:30

【会 場】こころ医療福祉専門学校 3階 講堂

【委 員】出席：大木田治夫，志岐浩二，高比良宏輔，石原義大  
諸岡辰巳，谷川幸太，川崎和幸  
藤原善行，小野格，高田一樹，濱村菜採  
新谷大輔，谷口幸太郎，中野仁，永田俊晴，高橋美如  
欠席：有村俊男，清川慎介

(敬称略)

## 1 開会の辞（司会 副校長 小野格）

本会の開会目的の説明を行う。

## 2 委員の紹介（司会 副校長 小野格）

各委員の紹介を行う。

## 3 委員長挨拶（校長 藤原善行）

### (1) 本年度の岩永学園の動きについて

「コロナ渦」という状況で学校経営，教育指導面でも毎日特別な意識を持って関わりを持たねばならず，非常に窮屈な毎日が続いていたが，ここ最近は県内や九州各県も感染者が大分落ち着いてきている。

学校もいよいよ成果が問われる国家試験の時期が近づいてきている。100日前集会を開くなどして，学生の心構えや気構えを説き，意識啓発を図っている。学内でも図書館や教室で学生の自主学習の姿も多くみられるようになり，授業や補修にもより熱が入っている。コロナ渦を理由にせず，努力を貫かなければいけないと感じている。

3月に卒業した学生たちも，国家試験・就職において例年にない成果をあげることができ，コロナ渦でも意欲を持って取り組みれば結果に繋がると示してくれた。様々な指導も先取りで取り組んでいるという気構えで取り組んでいる。

### (2) 学生募集について

学生募集では苦戦をしながらも，何とか例年並みの取り組みを進めているところだが，個人的には，教育課程に共感した県外からの受験者が増えたことをとても嬉しく感じている。教育課程とは学校のシンボルであり，社会に対する公約であり，どのような人材を現代社会に育てていくかの先取る指針になっていると感じる。

## 4 理学療法科

### (1) 現状報告（新谷）

ア 教員が学生と一緒に実習先へ同行して指導することに対する受け入れは，コロナの

状況が落ち着いてきているので、できる可能性はある。受け入れるにあたり5名程度で、検査を受けてもらう可能性もある。また、他の実習生と時期が重なっていない状況が望ましい。実施するにあたり、事前に文書で案を送っていただき、可能であれば院長に直接説明をしていただきたい。

教員が学生に対して指導、指摘していただけると指導者と学生の関係性が崩れる心配が減る。

イ 理学療法士協会の会員が減少してきている。理学療法士として県民に貢献していかなければならないが、そのような意識が薄い人が多いように感じる。そのことも踏まえて在学中に理学療法士の役割や倫理について教育していただきたい。

## (2) 委員意見

### ○大木田委員

ア ぜひ進めてもらいたい。今のコロナの状況であれば協力できる可能性がある。臨床実習指導者会議等で、周知してもらいたい。

イ スタッフや中堅の管理者に受講させたい。進めてもらいたい。

学校の取り組みに対して非常に期待をしている。一年生の臨床実習、長期の臨床実習もこれまで以上に学校の先生方の密なかかわりが必要ではないかと考えている。学生の能力や課題に対して学校に相談できる環境を整えることで学生が伸びるので、検討してほしい。

### ○志岐委員

ア 臨床実習の指導者にとっても有益である。若手のスタッフも指導しやすいと思う。

イ 学び方や学会のあり方自体が変わってきているので、ICT教育含めルール作りシステム作りが必要であると思う。

カリキュラムが変わってから iPad を持ちこんでわからない点を調べるたり、動画に撮影して見直して検討したりする学生もいるため、PC や IT 関係に馴染んでから入職するといいいのではないかと思う。

## 5 介護福祉科

### (1) 現状報告 (谷口)

ア 国家試験対策について

(ア) 認知症ケア指導管理士

14名受験13名合格(昨年度1年生時点で1名受験し合格)、学生の意識も高まった。

(イ) 国家試験に向けての現状

今年度実施した模擬試験の平均からランク分け

A ランク (90 点以上) 8 名 (留学生 1 名)

B ランク (60 点以上) 8 名 (留学生 1 名) 合否ライン

## C ランク (60 点以下) 24 名 (留学生のみ)

現状 B ランクの日本人学生の学力の底上げが課題。時間割内の国家試験対策科目や時間割外の補講の中で、国家試験の過去問を中心に現在、学習を行っている。

### (ウ) 実習における施設との連携について

#### ・特別な支援が必要な学生への対応に関して

今年度入学の1年生には特別な支援(発達障害など)が必要と思われる学生が数名いる。10月に実施した第1段階実習において、記録の主旨がずれている学生や、挨拶はできるが、よし悪しの判断が上手ではないためトラブルが起きた学生がいた。施設として、もしそのような学生の実習を受け入れるにあたり、要望などあればお聞かせいただきたい。

#### ・実習指導者との連携

実習指導者の方との連携において課題があると感じている。(1)の内容も含めてだが、今後指導者との連携を密にとるべき場面が増えてくると考えられる(実習前の打ち合わせなど)。

## (2) 委員意見

### ○高比良委員

ア 資格を取る重みをしっかりと理解してほしいと思う。高卒の学生はあまり給料とかともうかもしれないが、資格があるかないかでは年間の給料にも数十万差がでてくる。介護福祉士はあまりないが、社会福祉士や精神保健福祉士は内定取り消しになる場合もある。せつかく勉強するので、卒業と同時に資格を持つという意識を持てるようになってほしいと思う。我々も高校生資格ありなしなどで評価している点もあるため、学生に資格の強みを理解してもらいたいと思う。

現在の経過措置がある状況で、不合格でも後ろ盾があるという認識は少なからずあるため、国家試験に合格して就職することの本来の意味をきちんと理解してもらうことが課題である。

イ 今年度は社会人枠で2名採用した。新卒の学生と比較すると求めてはいけない部分かもしれないが、必死さが足りないと感じる部分はある。また、できてあたり前というプレッシャーもあると思う。できないことをできないと言えなくなるように配慮は必要と感じている。記録の書き方については、学生として書く記録と職員として書く記録は全然違う。客観的に書く部分と主観的に書く部分など、記録の構成の仕方の指導が必要と感じる。実習の際に感じたのは、疑問を持たない学生が多かったという点である。すべて受け入れてしまう学生が多かったので、学校で習ったこととの違いなど些細なことでもいいので質問をしてほしいと思う。

こころ医療だけではなく、学生が疑問を持たず質問をしてこないため、もっと疑問を持って自分の意見を伝えてほしいと思う。学生は記録を取ることに苦労しているため、学内実技から普段からメモを取るように指導するようにはしていただきたい。

ウ 特別な支援を必要とする学生への対応に関して実習を受け入れるにあたっては、やはり事前の情報として、学校でのその学生の弱点や強みを教えてほしい。また指導する際のポイントとして、言い回しやパニック傾向があるのかなどのかなどがある。また指導の方法も検討できる。また実習に一人でやらずに、いいパートナーになってくれる学生がいるとオフの時間に相談役になるなどいいのではないか。実習受け入れにあたって、年間を通してどういうことを学生が学んでいて、今どこまで学んでいるのかがわかると指導内容も立てやすい。また、他事業所の実習指導者との交流会などを学校主催で行ってもらえるとありがたい。

#### ○有村委員

##### ア ・少人数制を生かした国家試験対策

一人では勉強もはかどらないので、数人のグループに分かれて学習をする。学生同士で解いた問題を解説し合う。「〇〇が、嬉しそうな顔で問題を出していたなー」「この問題、皆で間違えた問題だ」などと、仲間の顔を思い浮かべながら問題が解け、より理解が深まり、知識が定着するのではないか。

##### ・国家試験対策の特別講義で苦手科目を克服

教員は模試の結果を検討し、専門領域の講師を招聘するなど、苦手科目を克服し、総合成績を向上させるため、工夫を凝らした講義を行ってみてはどうか。

##### ・合格した先輩の話を伺う

卒業生に話をしてもらおう機会を作ってみてはどうか。就職活動、そして国家試験の勉強をどのように乗り越えたかなど。

イ 短い時間でアセスメントできる力があるといい。現場では新しく入所してきた人に対して、すぐ情報収集して課題分析して、目標、介護内容を考えないといけない。介護過程の展開についての力を入れてほしい。

ウ 特別な支援が必要な学生への対応に関して施設としても特別な支援が必要な職員が就職する場合もある。実習に来る場合は、その学生の情報をもらえればと思う。例えばどういう障害をもっているのか、また学校でも関わり方など。そういう学生も育てていく必要があると感じている。介護福祉士会でも障害に関する研修を行っている。先生たちも含めて障害に関する知識など、理解を深める必要があるのではないか。

あけぼの荘では、実習前に「事前三者協議会」として、何を実習目標としているかを話し合う。実習の事前打ち合わせに学生だけでなく先生も参加し、実習の目標なども含めて打ち合わせできるといいのではないか。特に特別な支援が必要な学生については必要だと思う。今はリモートという手段もある。また実習終了後の反省会もやはり大切だと思う。

## 6 スポーツ柔整科

### (1) 現状報告（永田）

#### ア オンライン授業の状況について

昨年度は新型コロナウイルス感染の影響で、3名の講師にオンライン授業を実施した。今年度も引き続き、10名の講師の先生にオンライン授業を実施していただいた。しかし、対面授業と比べてオンライン授業では授業に対する学習意欲の低下がみられる。

学習意欲の低下は留年や退学に繋がるため、1年生時からの補習も検討している。そこで、明確な目標を持ち、学習意欲を向上させるためには、どのような手段を講じた方がよいか、御意見をお聞かせ願いたい。

#### イ 国家試験対策について

2022年第30回の国家試験から出題範囲が変更になったことを考え、今年度は例年以上に補習を充実させている。具体的な内容は午前10時から12時を週に3回、放課後は午後6時から8時を週に3回の計6回実施している。教員が授業を行う内容ではなく、学生自身に問題の解説を作成させる内容にしている。そこで、補習の内容をご覧いただき、低学力の学生の勉強意欲の向上方法についての御意見、御感想をお聞かせ願いたい。

#### ウ 就職状況について

昨年度から、新型コロナウイルス感染の影響で、就職説明会を開催できていない。現在内定を頂いている3年生は5名ほどになる。早い段階で内定を頂き、国家試験に集中してもらうために、学生にはオンライン合同説明会や、企業個別のオンライン説明会に参加するように促してはいるが低学力の学生ほど動き出しが遅いのが毎年の状況である。そこで、就職活動で、しっかりとした目標を持たせ、早い段階で内定を頂くためには、どのような手段を講じるべきか御意見をお聞かせ願いたい。

### (2) 委員意見

#### ○松永委員

ア オンライン環境がない学生がいる中で、小テストの実施や出席確認の為に、様々な創意工夫をしながら、国や県の基準に沿って、学校として最大限対応している現状かと思う。しかし、コロナ禍においては、オンライン授業（座学）、対面授業（実技）の併用は致し方ないことだと考えられ、対面授業に比べると理解度や緊張感の欠如は否めない。そこで、オンライン授業で学生に意欲を持たせるための方策として以下の3点を提案したい。①オンライン授業での質疑応答可の確保を充実させる（双方向性を持たせる）②講師が毎回小テストやレポート提出などの課題を出す（全教科で統一する）③課題提出者には、模擬試験等に加点をするなど、成績下位学生へ学習意欲を持たせる（課題や小テストの内容は国試対策や各教科の重点項目

など、多岐にあると考えられる)。柔道整復師協会としても同じような悩みがある。オンライン授業の状況について、我々の時代にはなかったもので、先生方のマンパワー不足も承知しているが、尽力していただければと思う。

イ 補講の内容や方法・補習時間については、十分確保してあると思う。まずは、追加の出題範囲を学習することも必要だが、国家試験の過去問を5年分、出来れば10年分は確実にクリアすることが不可欠である。成績下位の学生の中には、どこから手を付けてよいか判らない子もいると思うので、模試判定でA・B・Cランクの学生を4～5名にグループ分けをして、過去問での頻発問題や、国家試験に向けての傾向と対策などをアドバイスすることにより、勉強に対する目標や競争意識を持ってもらうのも一案であると思う。「百聞は一見に如かず」でイラストを基本とするなど、低学力層の学生も興味を持って学習できるよう、様々な課題の出し方をしていただきたいと思う。

ウ 早期の就職内定をいただくことは、国家試験への意欲・意識の向上につながると思われる。教員が日頃からコミュニケーションを図り、希望する企業とのマッチングも含め、総合的に判断し、学生の面談機会を後押ししては良いのではないかと。学生の将来のためにいいマッチングをしていただきたい。

また、日本柔道整復師協会として、柔道整復師の養成校とかかわりを深めたいと話がでていますが、そのためには学校協会に所属していることが条件としてあるため、加入のご検討をお願いできればと思っている。

#### ○清川委員

ア 対面授業に比べて、スクリーンを見ていると目が疲れやすくなり、眠気がおきたり、集中力が継続しにくくなったりすると思う。非常勤講師の協力を得て、ストレッチや体操など動きを取り入れてリフレッシュした方が授業に身が入りやすいと思う。また、全ての授業でオンラインを取り入れるのではなく、月に1度など定期的に対面授業の日を設けるのも良いかと思う。

イ 学校側で国家試験の過去問題集を購入させているので、学生は過去問を何度も繰り返し解いているため、新鮮味に欠け、作業化してしまう。そうになると学習意欲の低下に陥ってしまうため、柔道整復師だけでなく、鍼灸師・理学療法士・作業療法士・看護師の問題を解かせても良いかと思う。マンネリ化を防ぐことが学習意欲の向上や維持に繋がると思われる。

ウ 学校が毎年行っている就職説明会は予め学校側が参加する企業を選出していると思われるが、予め学生に興味のある企業などの聞き取り調査や説明会に参加できる日にちを把握して実施すれば、実際の開催日には学生も意欲的に企業に話を聞きに行くと思う。また、3年生だけでなく、1・2年生のうちから就職説明会に参加させ、将来働

きたい就職先を低学年のうちから意識させておけば、目標に向かい学習にも積極的になる。

#### ○石原委員

ア オンライン授業とは言え、画面越しに映像を見ることは学生からすれば、普段から見ているYouTubeと変わりがないのかもしれない。そういう映像を見る授業で果たして体の仕組みや医療知識に「なぜ？」という疑問が生まれるかが疑わしい。疑問や興味を持たない授業はどうしても意欲の低下に繋がってしまうと思われる。クラス全体に対して「何か質問はあるか？」と問いかけてもほとんどの学生は答えない。それならば非常勤講師の方が学生を指名し、直接問いかけるような形式の授業にすれば、質問もしやすい相互交通の授業を行うことができる。

イ 学生の勉強方法はインプット形式が多いので、本人が覚えた気になっているというのが問題である。アウトプット形式の学習方法を身に付けさせれば、学生も客観的に自分の記憶内容を把握できると思う。学生と教員だけでなく、保護者と連携を取ってみてはどうか。手間にはなると思うが、教員と保護者のグループラインを作成し、今後の日程、学生の模試での目標点数などの連絡を行えば、家庭でも保護者から学生に対して指導が入ることが期待できる。

ウ 個人事業やグループ展開している院に関係なく、外部から整骨院の先生を呼び、その整骨院の強みやトレーナーなどの業務形態の説明会を行う機会を設けてみてはどうか。教員から学生への企業説明よりも、学生が自ら体感した方がより就職のイメージも持てると思う。また、外部から呼ぶ以外にも1年生のうちから企業見学会の開催を行うなど、低学年から就職に意識を向けておいた方が良い。いざ就職するとなった時に自分になりたい柔道整復師のイメージを持って就職活動に臨んだ方が、失敗しない就職先選びに繋がると思う。

(石原) オンライン授業はいつまでする予定なのか？

(永田) 今年度は状況を見て続ける予定である。

(石原) できれば対面に越したことはないと思う。また、就職説明会も大手ばかりが参加するものだけではなく、個人経営のみの就職先説明会なども開催させていただければと思う。実習を利用して、整骨院の先生に就職についての質問もするように指導してもらえるといいのではないか。

## 6 スポーツ鍼灸科

### (1) 現状報告 (高橋)

ア 授業内容について

#### ○諸岡委員

(諸岡) 2020年度の鍼灸受療率調査の報告によると今回は4.9%で、低迷が続いて

いる。マッサージなど気持ちいいことを好む患者さんが多いので、あま指の受療は30～50代が多く、鍼灸は60代以降が多い。鍼灸は若い年齢層の患者が少ない。

(高橋) 慰安的な施術が多くの人に求められる中、でもいざとなればしっかり治療もできる鍼灸師を育てなければいけないと思う。

(諸岡) 学生も自分自身に鍼や灸をしてみて良くなったり、悪くなったり確認できるようになると面白いと思える。面白いと思わないと勉強も面白くない。学校は入り口なので、そのような経験が沢山できればよいと思う。

(高橋) 1年時から授業と実技を連動させて、鍼灸の効果を実感できる機会をできるだけ作っていつている。

(諸岡) 鍼灸を受けたことがない方が増えている。昔はお灸などで自分で健康管理をしていたが、今はお医者さん頼りになっている。お医者さんではできないことを、鍼灸を活用して施術してもらうよう意識してもらいたいと思っている。温めるお灸を入り口として、学生自身に何のための治療か考えていただきたいと思う。自分の体で感じることができるのが鍼灸の良い点なので進めていただきたいと思う。

## イ 今後の鍼灸について

### ○川崎委員

(川崎) コロナの影響もあり、時代が変わってきているので、鍼灸も変わっていかないといけない。卒業生で助産師と鍼灸師になった方みたいに、鍼灸以外も知っていてできるなど、何か特化したものがないと今後厳しい。また、それを発信もしないといけない。訪問鍼灸でケアマネと関わると鍼灸を知られていないことを実感する。

(高橋) 確かにこの数年、SNSで多くの情報が簡単に得られ、選択肢も増える中で鍼灸を選んでもらうための工夫はさらに必要になっている。

(川崎) 訪問鍼灸では煙が出るお灸は使いにくい。鍼は刺す鍼より刺さない鋲鍼で効果が出せれば、患者さんは痛くなく、衛生的でもある。電子温灸や鋲鍼を積極的に使うなど時代に合わせた方法で、それを鍼灸師個人、鍼灸師会、学校がそれぞれの立場で発信していくべきだと思う。

(高橋) 学校では、一昨年頃から台座灸や鋲鍼を実技道具として学生に購入させ、使い方を説明している。しかし、実技で最も時間を割くのは、灸では散り艾の据え方、鍼は毫鍼による刺鍼である。しかし、今後は臨床の実情に合わせ、変えていかなければならないと思う。

(川崎) 受療率を上げていくことは、鍼灸界全体で努力することではあるが、まずは間口として学校で鍼灸の良い点を知ってもらうことが必要だと思う。実際の体験を通して受療率を上げる協力をしていただきたいと思う。

## ウ 就職活動について



## ○谷川委員

(谷川) コロナ禍で学生はどのように就職活動をしているのか。

(高橋) ほとんどがオンラインで行われている。オンライン合同就職説明会や治療院個別のオンライン面談に参加している。数回、オンラインで面談を行い、それで内定する場合もあれば、最終的には現地面接となる場合もある。

(谷川) 学生は、就職先は何を見て探しているのか。また就職先を選ぶ決め手となることは何か。

(高橋) 探し方は様々で、学校掲示の求人票や治療院のホームページ、オンライン合同就職説明会などである。ただ、最近は治療院発信のInstagramやフェイスブックで情報を集めている学生が増えている印象がある。コロナの影響で就職活動も変化してきている。

学生にアンケートを取った結果、内定が1番早かった学生は6月末2人。その2人に刺激されて動き出し、8月・9月に動いた学生が多い。10月・11月ではほぼ全員内定。(9～10月合同就職説明会)アンケート回答後、個別に聞いた印象としては、就職活動を通して、だんだん自分がしたいことや、こういうところで働きたいという希望がわかってきて、それに叶いそうなところに面接に行っているようだった。就職先の情報は、学校の掲示の求人票やネット検索、ネットで合同就職説明会で知った学生が多かった。仕事内容、職場の雰囲気を決め手に探しているようだった。職務内容を優先順位に上げる学生が多く、次いで給料面、勤務地の順で条件を見ていたようだった。14人中現地6人、オンライン8人。オンラインのうち5人は完全オンラインで内定。現地に行かずに就職を決めた学生は昨年いなかったため、実際に就職してみてどうか聞いてみたいと思う。

(谷川) コロナ禍で就活が難しくなり、情報収集も難しいとは思いますが、就職する際にどのような鍼灸師になりたいのかを自分自身で考え、理想に近づくためにどのようにしたらいいか考えていただきたいと思う。

## 7 その他

### (1) スポーツ鍼灸科受験者について

(石原) 受験する学生が鍼灸を受けたことがないが受ける子がいると聞いたが本当か。

(高橋) 事実である。実際に来校した際に、鍼灸がどのようなものかわからないと、勉強を進めるにあたって難しいと思うため、体験させてあげるようにしている。

(石原) 鍼灸治療を受けたことない方の、受験理由は何なのか。

(高橋) スポーツトレーナーを目指したり、職業内容で魅力を感じ来校する学生が多い。

(小野) 広報課長としての観点で言うと、医療系の一資格として興味があったために来校する学生が多い印象である。

(石原) 何となく入った学生には、入学後に職業イメージなどをしっかりつけさせないといけないのではないかと思う。

(小野) すでに入学が決まった高校3年生の残りの半年間は、少しでも解剖等の内容に触れられるように課題を与えるようにしている。

(中野) 補足で、来年度スポーツ柔整科の1年生が3名スポーツ鍼灸科に進学する。昨年は勉強内容に自信がないため様子を見ていたが、1年間柔整の勉強を通して勉強の仕方を学び、鍼灸について調べたりして、来年度から1年ずらして、ダブルスクールで資格取得を目指す。最初は自信がなかったが、1年スポーツ柔整科で学んだことで自信をつけ、スポーツ鍼灸科への進学を志すような学生も増えてきている。

(石原) 今からの時代を考えると複数資格を持っている方が強く、貴校では減免制度もあるため、ダブルスクールで進学することは良いのではないかと思う。

## (2) 卒業生の離職率について

(高比良) 貴校の入学者数や国試合格率はよく聞くが、離職率については把握しているか。

(小野) 学校として調査はできていない。就職させて終わりではなく、卒業生への関りを持っていかなければいけないと思う。

(高比良) 一般に離職率が高いと聞くが、私の感覚では新任も3年は続いているように感じる。

(谷口) 去年の卒業生で離職した方がいるとは聞いていないが、精神的に落ち込んだりしている方がいるなどの情報は入ってきているため、関りを持っていきたいと思う。